

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は上下に大きく振れやすい展開か

[3月30日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		3月23日～3月27日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	110.85	111.71(24)	108.24(27)	108.47	-2.46
ユーロ・ドル	1.0695	1.1087(27)	1.0636(23)	1.1063	+0.0375

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	19,389.43	+2836.60	日本10年債利回り	0.023	-0.060
ダウ平均株価	22,552.17	+3378.19	米10年債利回り	0.845	-0.001

=====

<来週の主要経済統計等>

- 30日 スイス3月KOF先行指数
 - 独3月消費者物価指数速報値
- 31日 日本2月雇用統計、日本2月有効求人倍率
 - 日本2月小売業販売額、日本2月鉱工業生産指数
 - 中国3月製造業購買担当景気指数
 - スイス2月小売売上高
 - 独3月雇用統計
 - 英第4四半期国内総生産(GDP) 確報値
 - ユーロ圏3月消費者物価指数速報値
 - カナダ2月鉱工業製品価格
 - 米1月S&Pケースシャー住宅価格指数
 - 米3月シカゴ購買部協会景気指数
 - 米3月消費者信頼感指数
- 1日 日銀短観(3月調査)
 - 豪2月住宅建設許可件数
 - 中国3月財新製造業購買担当景気指数
 - ユーロ圏2月雇用統計
 - 米MBA住宅ローン申請件数
 - 米3月ADP雇用統計
 - 米3月ISM製造業景況指数、米2月建設支出
- 2日 スイス3月消費者物価指数
 - ユーロ圏2月生産者物価指数
 - カナダ2月貿易収支
 - 米2月貿易収支
 - 米新規失業保険申請件数
 - 米2月製造業受注
- 3日 豪2月小売売上高
 - ユーロ圏2月小売売上高指数
 - 米3月雇用統計
 - 米3月ISM非製造業景況指数

【前回のレビュー】コロナショックの影響でドル需要が増しており、ドル円も堅調な動きを見せている。リスク回避の円買いが出ても極端な円高には傾きにくいとみられ、ドル円は荒れた動きを続けながら上昇基調で推移するとした。

【緊急避難的なドル買いは一服】

日本時間の26日昼過ぎに米上院で、新型コロナウイルス対策の大型景気対策の法案が可決した。

2兆ドル（約220兆円）の前例のない規模の景気対策となり、家計や企業の資金繰りを支援する。景気対策への期待感が広がり、26日の米国株は急伸した。

23日にはNYダウが1万8000ドル台まで値を崩すなど、金融市場に不安が高まっていたものの、同法案への期待感もあり、24日以降に米国株は戻り歩調で推移している。米国株の上昇や米国での景気対策への期待感から主要国の株価もおおむね上昇に転じている。

なお、ドルキャッシュ確保のため流動資産への売りが膨らみ、ドル高の流れが続いていた。こうした中、23日に米連邦準備制度理事会（FRB）は量的緩和を無制限に行う緊急措置を決定した。また、FRBはすでに各国中銀とのドル資金融通の枠組みも用意しており、コマーシャルペーパー（CP）の買い入れ再開などを決めるなど、資金供給へ積極的な動きを見せている。FRBによる量的緩和策を無制限に行う発表などもあり、緊急避難的なドル買いは落ち着きを見せつつあるようだ。

ドル円は26日の東京時間まで110～111円台を中心とする推移を見せていた。ただ、26日のロンドン時間以降はドル買いの動きが一服したことで、ドル円は下値を探る展開となっている。27日の東京時間には108円台前半まで下落している。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は継続しており、感染者数や死者数は増加の一途をたどっている。イタリアでの死者数の増加は顕著であり、欧州各国では感染拡大を防ぐために外出制限などの措置が講じられている。米国でも非常事態宣言が出されて、各地で外出制限などが取られている。

25日に東京都の小池知事は、今週末（3月28日～29日）の不要不急の外出自粛を要請するなど、海外諸国だけでなく、日本国内でも感染拡大の影響が広がりつつある。

米国での大規模な経済対策やFRBによる資金供給などを背景にドル買いの動きは落ち着いているものの、感染者数の拡大に歯止めがかかったわけではない。市場の不安心理が高まるようだと、ドル需要は再び増大して、ドル買いに傾く可能性もある。その場合、リスク回避の円買いの動きにもつながりやすくなるとみられる。こうした状況下ではドル円は上下に大きく振れやすくなりそうだ。円買いの動きが勝った場合は、ドル円106円台までドル安円高に傾く可能性がありそうだ。一方で、ドル買いが勝った場合は110円台を回復する展開か。ドル円の目先の予想レンジは、106.00～111.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、3月31日に日本2月雇用統計、日本2月有効求人倍率、日本2月小売業販売額、日本2月鉱工業生産指数、米1月S&Pケースシラー住宅価格指数、米3月シカゴ購買部協会景気指数、米3月消費者信頼感指数、4月1日に日銀短観（3月調査）、米MBA住宅ローン申請件数、米3月ADP雇用統計、米3月ISM製造業景況指数、米2月建設支出、2日に米2月貿易収支、米新規失業保険申請件数、米2月製造業受注、3日に米3月雇用統計、米3月ISM非製造業景況指数などがある。

【ユーロドルは上昇一服か】

ユーロドルはドル買いの動きから23日に1.06台前半まで下落した。その後は緊急避難的なドル買いの動きが収まり、ユーロドルは1.10台まで上昇している。ただ、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う市場心理の悪化は再燃する可能性が高く、その場合は再びドル買いに傾きやすくとみられる。

ユーロドルの上昇はそれまで急落してきた反動高によるところも大きい。欧州での感染拡大は広がりを見せており、ユーロを積極的に買い進む理由は乏しい。このため、テクニカル的な反動高が一服した後は、再び売りに押されやすくなる。ユーロドルの目

先の予想レンジは、1.0700～1.1200ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、3月30日にスイス3月KOF先行指数、独3月消費者物価指数速報値、31日に中国3月製造業購買担当景気指数、スイス2月小売売上高、独3月雇用統計、英第4四半期国内総生産（GDP）確報値、ユーロ圏3月消費者物価指数速報値、カナダ2月鉱工業製品価格、4月1日に豪2月住宅建設許可件数、中国3月財新製造業購買担当景気指数、ユーロ圏2月雇用統計、2日にスイス3月消費者物価指数、ユーロ圏2月生産者物価指数、カナダ2月貿易収支、3日に豪2月小売売上高、ユーロ圏2月小売売上高指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買については御自身の判断でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。